

福知山市まち・ひと・しごと・あんしん
創生総合戦略

地方創生関係交付金
平成30年度実施事業の検証シート

令和元年12月2日（月）
有識者会議資料

NO.1

H30地方創生推進交付金「地域資源の活用と創業支援による交流人口倍增戦略推進事業					
事業名	佐藤太清記念美術館特別展事業				
担当課	地域振興部 文化・スポーツ振興課				
予算額	2,799千円				
<p>1 事業の背景・目的 著名な作家の作品による特別展の開催により、芸術文化を振興し、絵画愛好者の裾野を広げる。また、ギャラリートークの開催など工夫をこらしたイベント等により入館者の増加を図る。</p> <p>2 事業の内容 著名な作家の作品展を行いギャラリートークを実施する。さらに、企画展として市展作品展や高校アート展等身近な作家による展覧会を実施する。</p>					
決算額	報償費 230,000円 (講師謝礼) 旅費 83,860円 (講師旅費、職員旅費) 需用費 693,925円 (消耗品費、チラシ・ポスター印刷) 役務費 224,584円 (郵送料、手数料) 委託料 499,800円 (作品借用展示業務、美術運送) 使用料及び賃借料 54,320円 (原画借用料)	計1,786,489円			
KPI	(目標) 観光消費額 2,062,500千円 ⇒ (結果) 2,326,573千円 (目標) 中心市街地歩行者・自転車通行量 9,532人 ⇒ (結果) 3,330人 (目標) テナントミックス事業開設店舗数 6店 ⇒ (結果) 13店				
事業の成果	わかりやすく、楽しい展覧会を目指し各種企画・特別展を実施した。魅力ある展示内容、ワークショップ等の市民参加型の体験会を実施することで、市民が文化芸術に触れる機会を創出できた。				
課題	今後も、見たい展覧会、参加したいワークショップ等、市民ニーズに合致した企画運営を図っていく必要がある。				
R1年度以降の予定	大河ドラマの放送に合わせて、美術館2階でドラマ関連の特別展を開催する予定となっている。これまで取組んできた特別展については、他の施設などの利用も見据えながら検討していく。				
成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	H28	H29	H30
	特別展入館者数	人	8,273/4,000	5,970/4,000	3,917/5,000
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	H28	H29	H30
	企画展・特別展開催数	回	6/4	6/4	6/4
担当課による評価	B (相当程度効果があった)				
評価をつけた理由	特別展開催による成果は非常に効果があったと感じているが、昨年度より実績数(入館者数)が減少したため、相当程度の効果があったと評価した。				

NO.2

H30地方創生推進交付金「地域資源の活用と創業支援による交流人口倍增戦略推進事業					
事業名	商店街等振興事業				
担当課	産業政策部 産業観光課				
予算額	1,910千円				
<p>1 事業の背景・目的 商店街は経営者の高齢化や後継者の不在などに起因した空き店舗の増加や、来街者の減少により賑わいが失われ活力の低下を招いている。地域商業全体を底上げするための賑わい創出の取り組みが求められている背景を踏まえ、意欲的に商店街振興事業に取り組む商店街等に対して補助金を交付することにより、商店街や周辺地域の活性化を図る。</p> <p>2 事業の内容 商店街の賑わいの創出を図り、当該商店街の活性化を促進することを目的として、商店街組織、商業者団体等が自発的・自主的に行う事業に対し、福知山市商店街等イベント事業補助金を交付する。1回の事業につき20万円を限度に補助（補助率1/2以内、1団体年間3回を限度）。</p>					
決算額	補助金403,000円（内訳：商店街等イベント補助金403,000円） 計403,000円				
KPI	（目標）観光消費額 2,062,500千円 ⇒（結果）2,326,573千円 （目標）中心市街地歩行者・自転車通行量 9,532人 ⇒（結果）3,330人 （目標）テナントミックス事業開設店舗数 6店 ⇒（結果）13店				
事業の成果	京都府補助事業の終了、豪雨による浸水被害の影響等により、例年より事業数は減少したものの、商店街等の活性化に取り組む事業を支援することにより、市内に賑わいを創出することができた。H30年度実績5件				
課題	商店街等の空き店舗への出店促進と各個店の売上向上に繋がる取組になること、また一過性のイベントで終わらせずにリピートへ繋げる取組にすることが必要。				
R1年度以降の予定	引き続き、商店街等の活動を支援することで、市内に賑わいを創出し、活気あるまちを創造する。				
成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	H28	H29	H30
	歩行者自転車通行量	人	3,700/3,948	4,066/4,025	3,330/4,103
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	H28	H29	H30
	イベント実施回数	件	20/10	17/15	5/15
	イベント実施団体数	団体	9/9	9/9	4/9
担当課による評価	C（効果があった）				
評価をつけた理由	本施策を利用した事業において一定集客があったため。				

NO.3

H30地方創生推進交付金「地域資源の活用と創業支援による交流人口倍增戦略推進事業					
事業名	福知山城憩いの広場（ゆらのガーデン）管理事業				
担当課	産業政策部 産業観光課				
予算額	4,159千円				
<p>1 事業の背景・目的 福知山城憩いの広場「ゆらのガーデン」を、テナントの出店者協議会や市民参加のガーデニングサークルと連携を図りながら中心市街地への回遊の拠点として、また、街のシンボルとなる“四季の彩に満ちた和み空間”として維持管理することにより、市民や来街者が憩える場を提供し、関連事業との連携により、まちなかへ誘導していくことで、活性化につなげる。</p> <p>2 事業の内容 ゆらのガーデンの芝・植栽等の維持管理業務委託や日常的な清掃及び警備の業務委託、ガーデンの四季折々の草花の管理のためにガーデニングサークルに交付金を交付する。</p>					
決算額	需用費1,079,330円（内訳：電気水道、消耗品等） 役員費224,961円（内訳：ゴミ廃棄手数料、通信費等） 委託料1,855,300円（内訳：植栽・芝等維持管理、警備業務、日常清掃業務） 交付金500,000円（内訳：ガーデニングサークル運営） <p style="text-align: right;">計3,659,591円</p>				
KPI	（目標）観光消費額 2,062,500千円 ⇒（結果）2,326,573千円 （目標）中心市街地歩行者・自転車通行量 9,532人 ⇒（結果）3,330人 （目標）テナントミックス事業開設店舗数 6店 ⇒（結果）13店				
事業の成果	福知山市、ガーデニングサークル、福知山まちづくり株式会社、ゆらのガーデン出店者協議会が連携し、官民協働で維持管理し、良好な四季の彩と和みの空間づくりに努め、市民や来街者が憩える場を提供することができた。				
課題	平成30年度から全てのテナントが営業したことで来店者も増加しており、また、大河ドラマ放送決定の影響で観光客が増加していることから、まちなか回遊の拠点として適切な維持管理に努め、活性化に繋げる。				
R1年度以降の予定	今後も、ガーデニングサークルや福知山まちづくり株式会社、ゆらのガーデン出店者協議会と連携し、市民と来街者の憩いの場となるよう維持管理に努める。				
成果実績 （アウトカム） 実績/当初目標	指標	単位	H28	H29	H30
	来場者数	人	136,463/135,000	117,173/138,000	124,865/140,000
活動実績 （アウトプット） 実績/当初見込	指標	単位	H28	H29	H30
	ガーデニングサークル 活動参加人数	人	290/220	281/220	198/220
担当課による評価	C（効果があった）				
評価をつけた理由	官民協働による適切な維持管理が図られたため効果があったと評価した。				

NO.4

H30地方創生推進交付金「地域資源の活用と創業支援による交流人口倍増戦略推進事業					
事業名	地域資源の活用と創業支援による交流人口倍増戦略推進事業				
担当課	産業政策部 産業観光課				
予算額	6,000千円				
<p>1 事業の背景・目的 地方の商店街は、いずれの地域も郊外型やロードサイドへの大型店の進出、後継者難や店主の高齢化等により個店だけでなく組織としても新たな投資が困難となっている。このため、従来にない公民協働の新たな事業モデルを戦略的に組み立て実施することで地域経済全体の循環を促し、中心市街地の賑わいと交流人口の倍増を図る。</p> <p>2 事業の内容 中心市街地活性化に取り組む福知山駅正面通りの福知山フロント株式会社が、商店街をベースに空き店舗等の利活用を提案することで飲食店やゲストハウス等を開設するとともに、広域的な地域資源の活用によりインバウンド観光等を盛り込んだ新たな観光面での受け皿を構築する。</p>					
決算額	委託料2,000,000円 (内訳: 交流人口倍増戦略事業の推進に係る調査及び実証事業等実施業務) 補助金4,000,000円 (内訳: 地域資源の活用と交流人口倍増戦略事業補助金) 計6,000,000円				
KPI	(目標) 観光消費額 2,062,500千円 ⇒ (結果) 2,326,573千円 (目標) 中心市街地歩行者・自転車通行量 9,532人 ⇒ (結果) 3,330人 (目標) テナントミックス事業開設店舗数 6店 ⇒ (結果) 13店				
事業の成果	経済産業省の補助金を活用して2棟の空き店舗を改修・サブリースし3店舗を開業した他、物件所有者と利用希望者とのマッチングを行い、1店舗の新規出店に繋がった。また、委託事業として駅正面地区の夜間経済の振興に関する調査及び実証事業を行い、規制緩和や外観修景助成等の施策提案を行った。				
課題	駅前という好立地を活かした空き店舗等へのテナント誘致、インバウンドを含む観光客の取り込みのための魅力あるエリア形成や情報発信に向け、更に取組みを推進する必要がある。				
R1年度以降の予定	福知山フロント株式会社による一層のテナントミックスの推進とエリアの魅力を高める事業の展開を引き続き支援する。				
成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	H28	H29	H30
	駅正面通り歩行者・自転車の通行量	人	682/699	1,059/713	864/727
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	H28	H29	H30
	駅正面通りでの新規開業数	件	2/2	1/2	4/3
担当課による評価	B (相当程度効果があった)				
評価をつけた理由	新規出店者の誘致も順調に進んでおり相当程度効果があったと評価した。				

NO.5

H30地方創生推進交付金「地域資源の活用と創業支援による交流人口倍増戦略推進事業」					
事業名	中心市街地空き家・空き店舗等対策支援事業				
担当課	産業政策部 産業観光課				
予算額	10,945千円				
<p>1 事業の背景・目的 空き家・空き店舗が増え、空洞化が進む中心市街地において、それらを有効活用し、不動産の流動化を促し、まちなか居住の促進と商業活性化を図る。</p> <p>2 事業の内容 中心市街地エリアの空き家・空き店舗等の情報及び利用希望者の登録を行うことで不動産の流動化及び有効活用を推進する。また、新規開業を行う際の改修費・備品購入費の支援や、国の補助金の採択を受けて実施するテナントミックス事業に対して支援を行う。</p>					
決算額	委託料3,385,800円（内訳：ストックバンク登録業務委託） 補助金4,500,000円（内訳：空き店舗等対策事業補助金、テナントミックス推進事業補助金） 計7,885,800円				
KPI	（目標）観光消費額 2,062,500千円 ⇒（結果）2,326,573千円 （目標）中心市街地歩行者・自転車通行量 9,532人 ⇒（結果）3,330人 （目標）テナントミックス事業開設店舗数 6店 ⇒（結果）13店				
事業の成果	まちづくり株式会社に業務を委託することで、中心市街地の空き物件の細かな調査・聞き取りが進められ、空き店舗見学ツアーやDIYワークショップ等も開催し、更なる不動産の流動化が期待できる。 H30年度は、空き店舗等対策事業補助金、テナントミックス推進事業補助金を活用した新規出店が4店舗あり、中心市街地の活性化に寄与した。				
課題	登録物件の掘り起こしと利用希望者への情報発信、また、宅地建物取引業者との連携を図る。				
R1年度以降の予定	中心市街地での開業希望者は増加しており、新規開業やまちなか居住を推進するため、今後も継続していきたい。				
成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	H28	H29	H30
	新店舗開業数	件	5/4	3/4	4/4
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	H28	H29	H30
	新規登録物件数	件	5/10	11/10	3/15
担当課による評価	B（相当程度効果があった）				
評価をつけた理由	空き店舗へのテナント誘致が着実に進んでおり、効果があったと評価した。				

NO.6

H30地方創生推進交付金「地域資源の活用と創業支援による交流人口倍増戦略推進事業					
事業名	中心市街地誘客・回遊促進事業				
担当課	産業政策部 産業観光課				
予算額	1,000千円				
<p>1 事業の背景・目的 中心市街地の特色を住民自らの力で引き出していくことを目指した取り組みを行い、回遊性を高めるとともに、中心市街地の魅力を発信し、誘客を促進することで、中心市街地に賑わいを生み出す。</p> <p>2 事業の内容 商工業関係者・鉄道関係者・行政等で構成される実行委員会が実施する事業に対して補助金を交付する。</p>					
決算額	補助金1,000,000円（内訳：中心市街地誘客・回遊促進事業補助金） 計1,000,000円				
KPI	（目標）観光消費額 2,062,500千円 ⇒（結果）2,326,573千円 （目標）中心市街地歩行者・自転車通行量 9,532人 ⇒（結果）3,330人 （目標）テナントミックス事業開設店舗数 6店 ⇒（結果）13店				
事業の成果	同日に複数の会場で11のイベントを実施し、一体的な広報に努めたことで、まちなかへの誘客、回遊性が高まり、全体として18,800人の集客があった。 （御霊公園：ミニSL乗車会・JRブース・丹鉄ブース・ミニSL展示・農大育ち（若人チャレンジ）、厚生会館・ふれあい福祉フェスタ、広小路商店街：広小路ハロウィンまつり、新町商店街：ワンダーマーケット、ゆらのガーデン：ゆらの日和、駅北口公園：ふくちやまMEAT×MEET、駅前商店街：駅前おもてなしうどん）				
課題	商店街、鉄道関係者などとの連携をさらに深め、市内外から注目を集め、訪れてみたいと思えるような魅力ある事業を実施し、来訪者を増やし、中心市街地の賑わいを生み出していく。				
R1年度以降の予定	駅正面通りや広小路通り、ゆらのガーデンでのテナントミックス事業や、新町商店街でのマーケット事業など、公民の取組みにより魅力あるコンテンツを集積させ、一体的に情報発信することで市民や観光客の誘客に繋げる。				
成果実績 （アウトカム） 実績/当初目標	指標	単位	H28	H29	H30
	来場者数	人	—	中止	18,810/10,000
活動実績 （アウトプット） 実績/当初見込	指標	単位	H28	H29	H30
	同時開催イベント数	事業	—	中止	11/10
担当課による評価	B（相当程度効果があった）				
評価をつけた理由	一体的な情報発信により、市内外よりまちなかへの期待感を高め、誘客・回遊に繋がられた。				

NO.7

H30地方創生推進交付金「地域資源の活用と創業支援による交流人口倍增戦略推進事業					
事業名	「スイーツのまち福知山」事業				
担当課	産業政策部 産業観光課				
予算額	1,000千円				
<p>1 事業の背景・目的 福知山市内にスイーツ店が多く、かつバラエティに富んでいるという特徴を活かして「スイーツのまち福知山」を発信し、スイーツ観光を促進する。</p> <p>2 事業の内容 「スイーツフェスティバル実行委員会」への補助金。</p>					
決算額	補助金1,000,000円 (スイーツフェスティバル実行委員会への負担金) <div style="text-align: right;">計1,000,000円</div>				
KPI	(目標) 観光消費額 2,062,500千円 ⇒ (結果) 2,326,573千円 (目標) 中心市街地歩行者・自転車通行量 9,532人 ⇒ (結果) 3,330人 (目標) テナントミックス事業開設店舗数 6店 ⇒ (結果) 13店				
事業の成果	「スイーツフェスティバル実行委員会」が、市内外のスイーツ店を一同に集めたスイーツフェスティバルを開催し、スイーツを軸にした本市のPRと観光誘客促進を実施。				
課題	スタンプラリーを実施して回遊性を持たせる展開をしているが、消費額や経済効果を押し上げるまでにはなっていない。事業自体の費用対効果の明確化。				
R1年度以降の予定	7年を経過した。今後は、支援のあり方を見直すとともに、他のイベントとの共催により相乗効果を目指す。				
成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	H28	H29	H30
	観光入込客数	人	922,951/940,000	946,618/960,000	927,086/980,000
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	H28	H29	H30
	スイーツフェスティバル参加者数	人	4,800/5,000	4,800/5,000	6,000/5,000
担当課による評価	B (相当程度効果があった)				
評価をつけた理由	「スイーツのまち 福知山」としての知名度が広まってきていることを評価。				

NO.8

H30地方創生推進交付金「京都府北部地域連携都市圏ステップアップ事業」					
事業名	海の京都DMO事業				
担当課	産業政策部 産業観光課				
予算額	11,815千円				
<p>1 事業の背景・目的 京都府北部（宮津市・京丹後市・舞鶴市・福知山市・綾部市・伊根町・与謝野町）を「海の京都」と位置付け、全国有数の競争力ある観光圏となることを目的に、一般社団法人京都北部地域連携都市圏振興社（海の京都DMO）を組織・運営。</p> <p>2 事業の内容 一般社団法人京都北部地域連携都市圏振興社（海の京都DMO）に対する自治体負担金。</p>					
決算額	海の京都への負担金 11,851,000円 <p style="text-align: right;">計11,815,000円</p>				
KPI	（目標）観光消費額 2,062,500千円 ⇒（結果）2,326,573千円 （目標）空き家バンクを活用した移住世帯数 5世帯 ⇒（結果）15世帯 （目標）高等教育機関等卒業者の圏域内定着者数 26人 ⇒（結果）26人				
事業の成果	北部全体で観光による集客力を底上げするための施策を展開。 [H30主要事業] ・継続的データ収集・整備・分析 ・ 着地型旅行商品造成 ・インバウンド誘客 ・ 情報発信・プロモーション 等				
課題	福知山市としての事業に対する費用対効果の明確化。				
R1年度以降の予定	引き続き、一般社団法人京都北部地域連携都市圏振興社（海の京都DMO）と連携し、観光誘客を図る。				
成果実績 （アウトカム） 実績/当初目標	指標	単位	H28	H29	H30
	観光入込客数	人	922,951/940,000	946,618/960,000	927,086/980,000
活動実績 （アウトプット） 実績/当初見込	指標	単位	H28	H29	H30
	特産品販売額	万円	—	1,100/2,000	691/2,000
担当課による評価	B（相当程度効果があった）				
評価をつけた理由	海の京都DMOを中心とした広域誘客を図り、観光入込客増につながった。				

NO.9

H30地方創生推進交付金「京都府北部地域連携都市圏ステップアップ事業」					
事業名	SEA TO SUMMIT事業				
担当課	地域振興部 文化・スポーツ振興課				
予算額	783千円				
<p>1 事業の背景・目的 京都府からの提案事業で、中丹管内の自然を活用した競技大会「シー・トゥ・サミット（カヌー・自転車・ハイク）」を中丹地域内の周遊観光を促進するため民間主導の運営で開催。※民間とはアウトドアスポーツ用品メーカーの「㈱モンベル」（本社大阪）</p> <p>2 事業の内容 京都府・福知山市・舞鶴市・綾部市の四者が負担金を拠出し事業を実施する。各市の特色を活かし、カヤック、バイク、ハイクを実施 舞鶴（カヤック）⇒大江山グリーンロッジ（自転車）⇒大江山山頂（ハイク）の実施。</p>					
決算額	需用費 13,500円（参加者への粗品） 負担金補助及び交付金 556,558円（実行委員会負担金） 計570,058円				
KPI	（目標）観光消費額 2,062,500千円 ⇒（結果）2,326,573千円 （目標）空き家バンクを活用した移住世帯数 5世帯 ⇒（結果）15世帯 （目標）高等教育機関等卒業者の圏域内定着者数 26人 ⇒（結果）26人				
事業の成果	平成30年9月29日（土）開会式、30日（日）の競技日程で準備を進めていたが、前日の台風24号の接近により中止とした。				
課題	福知山市でのマルシェの実施や宿泊客の取り込みなど、地元経済に還元できる工夫を京都府や舞鶴市、綾部市の2市など主催者側とも調整し、負担金に見合った効果が得られるかが課題となる。				
R1年度以降の予定	福知山、舞鶴、綾部と一巡しており、スポーツ観光の振興としての、所期の目的を達成したとして、実行委員会において次年度以降の開催はしないことを決定した。				
成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	H28	H29	H30
	参加者数	人	146/150	113/180	0/180
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	H28	H29	H30
	開催回数	回	1/1	1/1	0/1
担当課による評価	C（効果があった）				
評価をつけた理由	大会は台風の接近により中止としたが、参加申込者に対して参加費や観光パンフレットに加え、各市名産品を粗品として送付、また中丹各市の情報も提供したことにより、今後の来訪が期待されるため。				

NO.10

H30地方創生推進交付金「京都府北部地域連携都市圏ステップアップ事業」					
事業名	ふるさと就職おうえん事業				
担当課	産業政策部 産業観光課				
予算額	947千円				
<p>1 事業の背景・目的 京都府北部の高校生は、高校卒業後進学等により地元を離れ、京阪神の大学等へ進学することが多々ある。そういった京阪神の大学等の未就職卒業予定者やU・I・Jターン希望者等を対象に、北部7市町内事業所による合同企業面接会を京都市内で開催し、来場者に就業支援や各種就職相談等も行うことで、京都府北部圏内事業所の人材不足解消を図るとともに、北部7市町への移住・定住を促進する。</p> <p>2 事業の内容 北部7市町内事業所による合同企業面接会を京都市内で開催 日時：平成30年5月21日（月） 会場：京都市勧業館みやこめっせ（京都市左京区） 参加事業者数：136事業所（内、福知山市45事業所）</p>					
決算額	負担金947,000円（京都府北部地域連携都市圏形成推進協議会負担金） 計947,000円				
KPI	（目標）観光消費額 2,062,500千円 ⇒（結果）2,326,573千円 （目標）空き家バンクを活用した移住世帯数 5世帯 ⇒（結果）15世帯 （目標）高等教育機関等卒業生の圏域内定着者数 26人 ⇒（結果）26人				
事業の成果	当日は求職者130名が参加し、その内19名（内、福知山市8名）の求職者が面接会参加事業所への就職につながった。				
課題	京阪神の大学等の未就職卒業予定者に対しての今まで以上のアプローチや開催時期の検討などが必要と考える。				
R1年度以降の予定	令和元年度も京都市内での開催とし、広報は様々な広報媒体を用いるとともに京阪神の大学訪問や、地元の保護者への呼びかけなども実施する。				
成果実績 （アウトカム） 実績/当初目標	指標	単位	H28	H29	H30
	就職内定者数	人	42/40	47/40	85/40
	ワークショップ参加高校生数	人	243/150	125/150	235/150
活動実績 （アウトプット） 実績/当初見込	指標	単位	H28	H29	H30
	就職面接会参加企業数	社	187/160	174/160	443/160
	就職面接会参加者数	人	334/300	273/300	776/250
担当課による評価	C（効果があった）				
評価をつけた理由	企業面接会を通じて19名の採用に結びついた。				

NO.11

H30地方創生推進交付金「京都府北部地域連携都市圏ステップアップ事業」					
事業名	移住・定住促進事業				
担当課	地域振興部 まちづくり推進課				
予算額	3,196千円				
<p>1 事業の背景・目的 京都府北部地域への移住促進を軸とし、圏域内の民間団体（者）及び関係者が都市部と京都府北部の関わりづくりを支援し、北部圏域で継続的な移住促進の運営につながるような取組および体制の構築を目指す。</p> <p>2 事業の内容 圏域全体で民間活力を活かした移住定住を推進するため、各市町で個々に活動している団体（者）を掘り起こし、広域で連携し活動できるよう育成に向けた企画支援を行う。 当該事業実施に必要なプログラム設計、拠点確保等においても事務局と調整し行う。</p>					
決算額	負担金 3,196,000円（京都府北部地域連携都市圏形成推進協議会負担金） 計3,196,000円				
KPI	（目標）観光消費額 2,062,500千円 ⇒（結果）2,326,573千円 （目標）空き家バンクを活用した移住世帯数 5世帯 ⇒（結果）15世帯 （目標）高等教育機関等卒業生の圏域内定着者数 26人 ⇒（結果）26人				
事業の成果	本事業によって各市町のプレーヤーの掘起しを行い、イベント等によりプレーヤー同士のつながりを深めた。これによる新たな展開として、団体（者）、民間事業者が主体となった移住者を呼び込むためのツアーのパッケージ化や、「働き方」をテーマにしたワークショップ等のイベント開催などが実施され、民間団体（者）による移住希望者の呼び込みと、「北部7市町」の旗印として、今後の活動への動機付けができた。				
課題	繋がりができたプレーヤーが、他の民間人材とさらに和を広めながら、イベント等の開催などの移住者を呼び込む動きに繋げていく必要がある。				
R1年度以降の予定	課題を踏まえ、事業の継続・発展を図る。				
成果実績 （アウトカム） 実績/当初目標	指標	単位	H28	H29	H30
	制度利用による定住者数	人	33/20	10/20	34/20
活動実績 （アウトプット） 実績/当初見込	指標	単位	H28	H29	H30
	新規移住希望者名簿登録数	件	181/100	65/100	81/100
担当課による評価	C（効果があった）				
評価をつけた理由	「京都北部」の旗印役として活躍する人材も発掘でき、実際に人が繋がったことで、人を呼び込むイベントがいくつも開催されるようになってきていることから、効果があったと考える。				

NO.12

H30地方創生推進交付金「京都府北部地域連携都市圏ステップアップ事業」					
事業名	広域連携推進事業				
担当課	市長公室 経営戦略課				
予算額	2,236千円				
<p>1 事業の背景・目的 近隣市町や京都府、その他府県等との連携により、広域課題等に対し効率的、効果的な施策を展開し、中核市並みのサービスを連携都市圏域内に展開する。</p> <p>2 事業の内容 「京都府北部地域連携都市圏」（構成：福知山市、舞鶴市、綾部市、宮津市、京丹後市、与謝野町、伊根町）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総会、幹事会、各部会等を開催し、連携ビジョン等の作成、アクションプランの策定等を行う。 ・連携ビジョンに従い、地方創生交付金を活用しながら各種事業を推進する。 					
決算額	役務費 1,850円（内訳：郵送料） 使用料及び賃借料 9,720円（内訳：会議会場使用料等） 負担金 1,993,000円（内訳：連携都市圏への負担金） 計2,004,570円				
KPI	（目標）観光消費額 2,062,500千円 ⇒（結果）2,326,573千円 （目標）空き家バンクを活用した移住世帯数 5世帯 ⇒（結果）15世帯 （目標）高等教育機関等卒業者の圏域内定着者数 26人 ⇒（結果）26人				
事業の成果	京都府北部地域連携都市圏において、連携都市圏ビジョン（北の京都七つ星プロジェクト）を策定。また、行政サービスシームレス化として北部7市町間での図書館相互利用を平成30年4月より開始した。				
課題	地方創生交付金が終了するR3以降も、広域連携としてそれぞれの市町がどう関わっていくか早い段階で検討していく必要がある。				
R1年度以降の予定	アクションプランに基づき、観光・産業・移住定住・教育・行政サービス・エネルギー・公共交通ネットワーク分野において、事業を推進していく。				
成果実績 （アウトカム） 実績/当初目標	指標	単位	H28	H29	H30
	広域連携事業数	事業	6/2	5/4	6/6
活動実績 （アウトプット） 実績/当初見込	指標	単位	H28	H29	H30
	各市理事者による協議	回	2/5	3/5	4/5
担当課による評価	B（相当程度効果があった）				
評価をつけた理由	平成30年4月から開始した北部7市町間での図書館相互利用では、福知山市立図書館において2,765人の北部圏域内住民の登録利用者があり、行政サービスシームレス化を進める事業として、相当程度効果があったと評価する。				

NO.13

H30地方創生推進交付金「京都府北部地域連携都市圏ステップアップ事業」					
事業名	福知山公立大学「知の拠点」推進事業				
担当課	市長公室 大学政策課				
予算額	10,000千円				
1 事業の背景・目的 福知山公立大学が北近畿地域における様々な課題解決に向けたシンクタンク機能を発揮するとともに、市民の「知の拠点」の役割を果たすため、地域連携・地域協働を推進するための取り組みを支援する。					
2 事業の内容 京都府北部地域連携都市圏等の地域連携事業費を支援し、地域協働・地域連携活動を推進した。					
決算額	賃金	2,333,829円	(内訳：コーディネータ報酬)		
	報償費	437,500円	(内訳：講師謝礼)		
	旅費	629,923円	(内訳：教員研究プロジェクトに係る交通費)		
	需用費	1,580,578円	(内訳：消耗品等)		
	役務費	624,765円	(内訳：郵送料、広告料等)		
	委託料	2,508,914円	(内訳：広告・チラシデザイン料等)		
	使用料及び賃借料	1,353,075円	(内訳：まちかどキャンパス家賃・駐車場)		
	備品購入費	469,576円	(内訳：図書購入費)		
	負担金補助及び交付金	61,840円	(内訳：自治会費等)		
			計10,000,000円		
KPI	(目標) 観光消費額 2,062,500千円 ⇒ (結果) 2,326,573千円 (目標) 空き家バンクを活用した移住世帯数 5世帯 ⇒ (結果) 15世帯 (目標) 高等教育機関等卒業者の圏域内定着者数 26人 ⇒ (結果) 26人				
事業の成果	北近畿地域を舞台とする北近畿地域連携シンポジウム、地域創生セミナーなど様々な地域連携事業を通じて北近畿地域の行政機関、教育機関、企業、各種団体等とのネットワークを形成した。 また、地域連携事業を通じて今後さらなる連携を図っていくことを目的に、京都府、京都府北部4市2町（舞鶴市、綾部市、宮津市、京丹後市、与謝野町、伊根町）と包括協定を締結した。				
課題	京都府北部地域を対象とした地域連携事業の積極的な展開が必要である。				
R1年度以降の予定	地域連携拠点である北近畿地域連携センターの情報を大学HPや情報誌等を活用して積極的に発信し、地域住民並びに北近畿地域の企業、行政、各種団体等による利用を促進し、北近畿はもとより全国に福知山公立大学の存在感を高めていく。				
成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	H28	H29	H30
	地域と大学の連携取組数	件	4/10	6/10	15/10
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	H28	H29	H30
	社会人向け講座受講者数	人	990/100	1,604/200	1,598/300
担当課による評価	A（非常に効果があった）				
評価をつけた理由	地域が抱える課題に対して福知山公立大学が有する知を活用する機会を創出するために地域研究プロジェクトを実施し、7件のプロジェクトを支援した。 また、まちかどキャンパスを大学が取り組む主催事業や大学ゼミ活動、学生企画チームの事業など様々な市民活動の取り組みの場として活用するなど、非常に効果があったと評価する。				

NO.14

H30地方創生推進交付金「京都府北部地域連携都市圏ステップアップ事業」					
事業名	農商ビジネスフェア開催負担金（農業生産組織等指導強化事業）				
担当課	産業政策室 産業観光課				
予算額	119千円				
<p>1 事業の背景・目的 新商品開発や販路開拓に取り組む京都北部5市2町の農林漁業者、食品製造時業者等がこの農商ビジネスフェアを通じて、新たな農業ビジネスを創出することを目指す。</p> <p>2 事業の内容 与謝野町内で7市町圏域内での域内消費を目指した商談会を2回実施し、7市町の生産者と事業者とのマッチング、情報共有、専門家からのアドバイス等を行う。</p>					
決算額	負担金118,000円（京都府北部地域都市圏農商ビジネスフェア負担金） 計118,000円				
KPI	（目標）観光消費額 2,062,500千円 ⇒（結果）2,326,573千円 （目標）空き家バンクを活用した移住世帯数 5世帯 ⇒（結果）15世帯 （目標）高等教育機関等卒業者の圏域内定着者数 26人 ⇒（結果）26人				
事業の成果	農商ビジネスフェアを通じて、新たな取引先の獲得や、専門家によるアドバイスで新商品の開発等につながった。				
課題	販路開拓や新商品開発に積極的な事業者の発掘が必要。				
R1年度以降の予定	平成30年度の事業内容を更にブラッシュアップさせ、継続して事業を実施する。				
成果実績 （アウトカム） 実績/当初目標	指標	単位	H28	H29	H30
	—	—	—	—	—
活動実績 （アウトプット） 実績/当初見込	指標	単位	H28	H29	H30
	—	—	—	—	—
担当課による評価	C（効果があった）				
評価をつけた理由	参加者から販路開拓や新商品開発に結びついたという報告を受けているため。				

NO.15

H30地方創生推進交付金「福知山市・丹波市・朝来市 定住生活圏域創生人財・産業育成事業」					
事業名	福知山公立大学「知の拠点」推進事業				
担当課	市長公室 大学政策課				
予算額	21,200千円				
<p>1 事業の背景・目的 福知山公立大学が北近畿地域における様々な課題解決に向けたシンクタンク機能を発揮するとともに、市民の「知の拠点」の役割を果たすため、地域連携・地域協働を推進するための取り組みを支援する。また、令和2年度開設を目途とする情報学部の設置業務を支援する。</p> <p>2 事業の内容 兵庫県朝来市・丹波市との地域連携事業費を支援し、地域協働・地域連携活動を推進した。また、新学部設置に係る外部有識者を含む委員会運営及びコンサル業務委託費を支援した。</p>					
決算額	賃金	2,405,839円	(内訳：臨時職員、コーディネータ賃金)		
	報償費	2,203,020円	(内訳：新学部設置準備委員会委員謝金)		
	旅費	1,049,790円	(内訳：新学部設置に係る旅費)		
	需用費	2,158,149円	(内訳：リーフレット等作成)		
	役務費	5,765,159円	(内訳：郵送料)		
	委託料	6,509,045円	(内訳：コンサル他)		
	使用料及び賃借料	559,092円	(内訳：駐車場・会場使用料)		
	備品購入費	549,906円	(内訳：マイク)		
			計21,200,000円		
KPI	(目標) 圏域内観光主要施設売上額 1,100,000千円 ⇒ (結果) 1,212,271千円 (目標) 移住支援制度を利用し転入した人の数 20人 ⇒ (結果) 41人 (目標) 人口社会増 △120人 ⇒ (結果) △416 (目標) 企業支援制度を利用して起業した人の数 20人 ⇒ (結果) 11人				
事業の成果	北近畿地域を舞台とする北近畿地域連携シンポジウムなど様々な地域連携事業を通じて北近畿地域の行政機関、教育機関、企業、各種団体等とのネットワークを形成した。 また、地域連携事業を通じて今後さらなる連携を図っていくことを目的に、兵庫県丹波市、朝来市と包括協定を締結した。 さらに、新学部設置認可申請に向けて、福知山公立大学において新学部設置準備委員会を立ち上げて検討を行い、平成31年3月に文部科学省に設置認可申請書を提出した。				
課題	兵庫県北部地域を対象とした地域連携事業の積極的な展開が必要である。				
R1年度以降の予定	地域連携拠点である北近畿地域連携センターの情報を大学HPや情報誌等を活用して積極的に発信し、地域住民並びに北近畿地域の企業、行政、各種団体等による利用を促進し、北近畿はもとより全国に福知山公立大学の存在感を高めていく。				
成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	H28	H29	H30
	地域と大学の連携取組数	件	4/10	6/10	15/10
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	H28	H29	H30
	社会人向け講座受講者数	人	990/100	1,604/200	1,598/300
担当課による評価	A (非常に効果があった)				
評価をつけた理由	令和2年度の情報学部の設置に向け、新学部設置準備委員会と作業部会を発足し、平成31年3月に文部科学省に認可申請書を提出するなど、非常に効果があったと評価する。				

NO.16

H30地方創生推進交付金「福知山市・丹波市・朝来市 定住生活圏域創生人財・産業育成事業」					
事業名	福知山市伝統文化後継者育成事業				
担当課	地域振興部 文化・スポーツ振興課				
予算額	1,100千円				
1 事業の背景・目的	<p>丹波漆、丹後和紙等の伝統技術、工芸製品は市民の「心の豊かさ」や「地域の魅力」を創造し、本市の歴史・文化の個性と魅力を引き出す観光・地域資源となっている。この貴重な伝統文化を未来へ継承するため新たな後継者の育成を図る。</p>				
2 事業の内容	<p>本市に伝承される伝統的な工芸・技術を文化としてまた地域産業として継承させるため、後継者育成に係る生産者及び伝承活動団体等の事業に対し支援を行う。</p> <p>(1)後継者の育成支援 後継者1人につき3年を限度に補助金を交付する。月額上限50千円、年額600千円。</p> <p>(2)後継者となる人材の発掘を目的とする伝統的工芸品等の製造に係る調査及び研究の体験研修等を行う事業に補助金を交付する。事業費の1/2、上限10万円。</p>				
決算額	負担金補助及び交付金 432,000円（後継者育成補助金） 計432,000円				
KPI	(目標) 圏域内観光主要施設売上額 1,100,000千円 ⇒ (結果) 1,212,271千円 (目標) 移住支援制度を利用し転入した人の数 20人 ⇒ (結果) 41人 (目標) 人口社会増 △120人 ⇒ (結果) △416 (目標) 企業支援制度を利用して起業した人の数 20人 ⇒ (結果) 11人				
事業の成果	本市の誇る伝統文化（伝統技術、工芸製品）の伝承と後継者育成を図るとともに定住の促進に寄与している。 本市の文化資源を有効に活用し、文化振興と本市伝統文化の後継者発掘促進を進めるため、体験活動や調査研究活動に対して新規に補助金を設けた。				
課題	本市の誇る伝統文化(伝統技術、工芸製品)の伝承と後継者育成を図るため、後継者の独り立ち、生業としての定着が求められる。				
R1年度以降の予定	今後、人材を活用し、文化振興を図る手法を探る。				
成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	H28	H29	H30
	伝統工芸の市民の理解度 (新聞等掲載数)	件	—	—	4/3
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	H28	H29	H30
	後継者の育成	人	—	1/1	1/1
担当課による評価	C (効果があった)				
評価をつけた理由	伝統文化の後継者育成に一定の効果があったと判断しているが、伝統文化を継承していくことの重要性などについて、あまり認知されておらず、PRも十分に行っていない。				

NO.17

H30地方創生推進交付金「福知山市・丹波市・朝来市 定住生活圏域創生人財・産業育成事業」					
事業名	観光地域づくりセンター設置運営事業				
担当課	産業政策部 産業観光課				
予算額	13,138千円				
<p>1 事業の背景・目的 本市にある過疎化や高齢化等により活力を失いつつある地域の地域資源と経営感覚のある事業者を繋いで、観光を切り口としながら持続可能な観光地域づくりを進める。</p> <p>2 事業の内容 民間の専門的な視点やノウハウを有した戦略マネージャー及び地域づくり担当を外部委託し、地域関係者や事業者を交え伴走型により事業展開する。</p>					
決算額	報償費 30,000円 需要費 60,464円 委託料 12,686,760円 計12,777,224円				
KPI	(目標) 圏域内観光主要施設売上額 1,100,000千円 ⇒ (結果) 1,212,271千円 (目標) 移住支援制度を利用し転入した人の数 20人 ⇒ (結果) 41人 (目標) 人口社会増 △120人 ⇒ (結果) △416 (目標) 企業支援制度を利用して起業した人の数 20人 ⇒ (結果) 11人				
事業の成果	事業着手箇所の選定と関係者間の調整を実施し、3地区で事業着手。				
課題	一部の関係者や住民だけの取り組みではなく、地域に関係する事業者を幅広く巻き込み、地域全体での取り組みとする必要がある。				
R1年度以降の予定	引き続き、事業を継続。公立大学等と連携した分科会など、戦略会議のあり方は調整を行う。				
成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	H28	H29	H30
	観光入込客数	人	922,951/940,000	946,618/960,000	927,086/980,000
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	H28	H29	H30
	事業着手数	回	—	2/3	3/3
担当課による評価	C (効果があった)				
評価をつけた理由	3地区での事業展開について実施している。				

NO.18

H30地方創生推進交付金「福知山市・丹波市・朝来市 定住生活圏域創生人財・産業育成事業」					
事業名	次世代交流ワークショップ事業				
担当課	地域振興部 まちづくり推進課				
予算額	1,902千円				
<p>1 事業の背景・目的 高校卒業後、福知山を出る若者が多い中、高校生や大学生をはじめとした若い世代と幅広い世代の市民が福知山市のまちづくりや未来について意見を交わす場を創出し、若者と地域が関わるきっかけや、意見の抽出を図り、にぎわいと活気ある福知山の新時代を切り拓く人材育成を目的とする。</p> <p>2 事業の内容 無作為抽出により募集した幅広い年代の市民と、高校生・大学生などがグループ討議により福知山のまちづくりに関する多様な議題について意見を交わす「ふくちやま次世代交流ワークショップ」を開催した。 また、市内の高等学校において「高校生フューチャーセッション」を開催し、地域で活躍する若者の話を聞き、地域の将来や自分の人生について語るワークショップを行った。</p>					
決算額	報償費 128,000円（内訳：協力者等謝礼） 需用費 68,565円（内訳：ワークショップ消耗品、回答用はがき印刷等） 役務費 179,682円（内訳：郵送料） 計376,247円				
KPI	（目標）圏域内観光主要施設売上額 1,100,000千円 ⇒（結果）1,212,271千円 （目標）移住支援制度を利用し転入した人の数 20人 ⇒（結果）41人 （目標）人口社会増 △120人 ⇒（結果）△416 （目標）企業支援制度を利用して起業した人の数 20人 ⇒（結果）11人				
事業の成果	次世代交流ワークショップには98人が参加、また高校生フューチャーセッションは4校で開催できた。日ごろは出会うことのあまりない多世代の多様な人材が話し合う場をつくることができた。また、高校や大学と連携し、生徒・学生に地域で暮らすことについて考えるきっかけをつくることができた。				
課題	市内高校生と市出身の大学生の参加促進、また、単発のワークショップだけではなく、継続した取り組みを検討する必要がある。				
R1年度以降の予定	課題を踏まえ、事業の継続・発展を図る。				
成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	H28	H29	H30
	アンケートで再度の参加を希望した人の割合	%	58/50	97/60	86/70
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	H28	H29	H30
	ワークショップ参加者	人	71/100	94/100	98/100
担当課による評価	C（効果があった）				
評価をつけた理由	アンケートからは多様な世代や背景を持つ参加者との話し合いにより、これまで知らなかった福知山の魅力や課題を知ることができたという意見が多くあり、今後も「地域の魅力を伝えたい」「色々な人と話すようにしたい」との声も聞かれたことから、郷土愛の醸成やまちづくりへの参画意識向上などに一定の効果があったと考える。				

NO.19

H30地方創生推進交付金「福知山市・丹波市・朝来市 定住生活圏域創生人財・産業育成事業」					
事業名	福知山産業支援事業				
担当課	産業政策部 産業観光課				
予算額	30,794千円				
<p>1 事業の背景・目的 新たな産業支援事業として起業を志す人や経営上の課題を抱える中小企業等のあらゆる問題の解決と売上向上に向けたビジネスの挑戦を事業者の目線に立って一緒になってチャレンジするための拠点として福知山産業支援センターを開設し、これを核とした地域の活性化に向け全力で取り組む。</p> <p>2 事業の内容 相談業務を中心とした支援を行う福知山産業支援センター「ドッコイセ!biz」においてあらゆる業種の事業所の相談に対応する。福知山産業支援センター「ドッコイセ!biz」の運營業務については、一般社団法人福知山産業支援機構へ業務委託をする。</p>					
決算額	<ul style="list-style-type: none"> ・旅費：387,450円 ・需用費：77,471円 ・役務費：86,754円 ・委託料：23,226,938円 ・使用料及び賃借料：116,376円 <p style="text-align: right;">計23,894,989円</p>				
KPI	(目標) 圏域内観光主要施設売上額 1,100,000千円 ⇒ (結果) 1,212,271千円 (目標) 移住支援制度を利用し転入した人の数 20人 ⇒ (結果) 41人 (目標) 人口社会増 △120人 ⇒ (結果) △416 (目標) 企業支援制度を利用して起業した人の数 20人 ⇒ (結果) 11人				
事業の成果	相談件数については、平成30年度は965件(月平均80件)の相談を受けており、当初の目標としていた月60件を上回る件数となっており、そのうち約8割はリピーターとして複数回相談にいられている。さらに満足度調査でも約7割が相談内容に満足されている。				
課題	市内事業者や市民にも、センターの取り組みや成果を理解いただき、更に利用の拡大を図っていくことが必要である。				
R1年度以降の予定	今後は、成果につながる成功事例を増やしていくなかで、センターや行政、市内事業者や金融機関、大学といった様々な関係団体がさらに協力し合う様な仕組みを構築し、事業者の課題解決につながる事業の展開をセンターとともに図っていききたい。				
成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	H28	H29	H30
	販路拡大等につながった件数	件	—	—	19/30
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	H28	H29	H30
	相談件数/月	件	—	91/30	79/30
担当課による評価	B (相当程度効果があった)				
評価をつけた理由	相談件数も当初目標を上回っており、売上アップや新商品開発などの成功事例も出てきているため。				

NO.20

H30地方創生推進交付金「福知山市・丹波市・朝来市 定住生活圏域創生人財・産業育成事業」					
事業名	肉のまち福知山事業				
担当課	産業政策部 産業観光課				
予算額	2,000千円				
<p>1 事業の背景・目的 かつては全国三大家畜市場の一つに数えられた福知山家畜市場があり、精肉店や焼肉店がしぜん と増えてきた歴史的背景がある。肉を観光・交流コンテンツとしてイベントを実施。</p> <p>2 事業の内容 牛や豚、鳥、ジビエなど様々な肉を提供する精肉店や焼肉店を集めた「ふくちやまMEET×M EATフェスティバル」を開催</p>					
決算額	肉まち協議会への補助金2,000,000円 <p style="text-align: right;">計2,000,000円</p>				
KPI	(目標) 圏域内観光主要施設売上額 1,100,000千円 ⇒ (結果) 1,212,271千円 (目標) 移住支援制度を利用し転入した人の数 20人 ⇒ (結果) 41人 (目標) 人口社会増 △120人 ⇒ (結果) △416 (目標) 企業支援制度を利用して起業した人の数 20人 ⇒ (結果) 11人				
事業の成果	イベントを開催し7,000人(主催者発表)の来場者				
課題	イベント以外にも店舗などへ行ってもらおう仕掛けが必要				
R1年度以降の予定	イベント支援については、3年程度を目処に見直しを進める。				
成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	H28	H29	H30
	イベント参加者数	人	—	中止	7,000/3,000
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	H28	H29	H30
	実施回数	回	—	0/1	1/1
担当課による評価	C(効果があった)				
評価をつけた理由	初めての開催であったが多くの来場者でにぎわい、観光消費額増につながった。				

NO.21

H30地方創生推進交付金「福知山市・丹波市・朝来市 定住生活圏域創生人財・産業育成事業」					
事業名	福知山産業フェア事業				
担当課	産業政策部 産業観光課				
予算額	3,800千円				
<p>1 事業の背景・目的 商業・工業・農業等に関わる関係団体が一体となり、三段池公園体育館及び周辺で本格的な物産展を開催し、情報交換、交流を通じて取引機会の拡大、異種業者との情報交換、交流産業育成と活性化を推進する。</p> <p>2 事業の内容 福知山産業フェアは、企業・団体による製品の展示・技術PR・即売や農協・観光協会による地場産品・観光土産品販売、料理飲食業組合等による飲食グルメコーナー、各種イベント等が行われており、この大規模物産展の開催に対して補助金を支出するもの。</p>					
決算額	負担金補助及び交付金 3,800,000円 <p style="text-align: right;">計3,800,000円</p>				
KPI	(目標) 圏域内観光主要施設売上額 1,100,000千円 ⇒ (結果) 1,212,271千円 (目標) 移住支援制度を利用し転入した人の数 20人 ⇒ (結果) 41人 (目標) 人口社会増 △120人 ⇒ (結果) △416 (目標) 企業支援制度を利用して起業した人の数 20人 ⇒ (結果) 11人				
事業の成果	出展企業108社のうち、取引拡大につながった出展者が41者あり、出展者アンケートでも、約半数の出展者が、企業活動において一定の効果があつたとの回答を得ている。				
課題	今後、より多くの方に来場いただけるようイベント広報等の工夫が必要である。				
R1年度以降の予定	本市でも集客のあるイベントであり、今後は企業同士の交流の促進がされるよう内容を検討する。				
成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	H28	H29	H30
	来場者数	人	—	—	69,000/70,000
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	H28	H29	H30
	出店企業数	者	—	—	108/150
担当課による評価	B (相当程度効果があつた)				
評価をつけた理由	福知山産業フェアは、2年ぶりの開催ながら、69,000人の来場者があり、出展企業108社の約半数が取引機会の拡大につながっているため。				

NO.22

H30地方創生推進交付金「福知山市・丹波市・朝来市 定住生活圏域創生人財・産業育成事業」					
事業名	福知山アーティスト・イン・レジデンス事業				
担当課	地域振興部 文化・スポーツ振興課				
予算額	1,557千円				
<p>1 事業の背景・目的 地域の人々が主体となって芸術文化活動に関わる環境づくりを促進し、地域の魅力をアートの視点から引き出すアーティスト・イン・レジデンス事業を実施する。</p> <p>2 事業の内容 京都Re:search実行委員会（事務局：京都府）を立ち上げ、地域アートマネージャー（中丹広域振興局）を中心に公募したアーティスト、文化協力員、地域住民と交流し、福知山市の風土や歴史等を調査し、そこでの発見を活かしたプロジェクトや作品プランの構想を立てた。</p>					
決算額	使用料及び賃借料 1,780円 負担金補助及び交付金 1,216,510円（実行委員会負担金） 計1,218,290円				
KPI	（目標）圏域内観光主要施設売上額 1,100,000千円 ⇒（結果）1,212,271千円 （目標）移住支援制度を利用し転入した人の数 20人 ⇒（結果）41人 （目標）人口社会増 △120人 ⇒（結果）△416 （目標）企業支援制度を利用して起業した人の数 20人 ⇒（結果）11人				
事業の成果	アーティストの宿泊施設周辺地域及び調査に回った地域の方々等との交流を通して、一部ではあるが地域の文化に対する人の動きが生まれた。今回参加のアーティストの発想に、関わった方たちが見落としていたことや新しい視点に気づくことが出来た。				
課題	「京都：Re-Search」の成果を踏まえた制作発表へと繋げるため、さらに地元アーティストや地域住民との交流を深め、地域の人々がアートに触れ、楽しむ機会を増やすとともに地域が本来持ち得ているポテンシャルやその魅力をアートの視点から引き出すことで”文化を活かしたまちづくり”の実現を図る。				
R1年度以降の予定	京都府事業終了のため、平成30年度で終了。				
成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	H28	H29	H30
	参加者数	人	—	6/6	4/4
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	H28	H29	H30
	作品展示発表	点	—	6/6	4/4
担当課による評価	C（効果があった）				
評価をつけた理由	芸術を活用した文化事業として一定の効果があったが、現代アートに対する認識の差などがあり、地域住民を巻き込んだ大きな取組にできなかった。				

NO.23

H30地方創生推進交付金「福知山市・丹波市・朝来市 定住生活圏域創生人財・産業育成事業」					
事業名	福知山PR戦略総合推進事業				
担当課	市長公室 秘書広報課				
予算額	24,185千円				
1 事業の背景・目的 シティプロモーションの視点に立った事業として、市外に対しては福知山市の認知度・イメージ向上と関係人口の拡大、市内に対してはシビック・プライド（まちへの愛着や誇り）醸成を目的とする。					
2 事業の内容 ○「知られざる明智光秀プロジェクト」クリス・ペプラーさん特別大使就任、明智光秀イメージ調査、福知山城記者会見、プロモーション動画作成 等 ○「いがいと！福知山 市民PRプロジェクト」市民PR講座、Instagramフォトキャンペーン 等 ○その他、アサヒビール福知山城デザイン缶限定販売、竜王戦と絡めたプレスツアー、光秀シンポジウム、「福知山の治水とまちづくり」調査研究 等					
決算額	報償費 576,800円（内訳：講師・監修者への謝金 等） 旅費 1,036,470円（内訳：大河ドラマ協議、先進地視察 等） 需用費 1,265,816円（内訳：のぼり・ポスター作成 等） 委託料 17,677,008円（内訳：PR業務委託、宣伝製作物委託 等） その他経費 439,473円（内訳：懸垂幕取付、備品購入 等） 計20,995,567円				
KPI	（目標）圏域内観光主要施設売上額 1,100,000千円 ⇒（結果）1,212,271千円 （目標）移住支援制度を利用し転入した人の数 20人 ⇒（結果）41人 （目標）人口社会増 △120人 ⇒（結果）△416 （目標）企業支援制度を利用して起業した人の数 20人 ⇒（結果）11人				
事業の成果	○「明智光秀 福知山」という単語が掲載された記事数（日経テレコンデータベースによる）平成29年度 48件 ⇒ 平成30年度 160件と、3倍以上を記録。 ○将棋タイトル「竜王戦 福知山城対局」開催後、福知山城の入館者数が前年同月比1.6倍に増加。施設リニューアルもあり約1か月休館したにも関わらず、年度の入館者数が4万人突破。（過去33年度の中で3年ぶり4回目）				
課題	大河ドラマ放送というピークにあわせて、PR活動の質と量とスピードを高めていく。				
R1年度以降の予定	令和2年度までを、重点PR活動期間と位置づけて「知られざる明智光秀プロジェクト」を中心に更なるPR活動を行う。				
成果実績 （アウトカム） 実績/当初目標	指標	単位	H28	H29	H30
	Instagram投稿件数	件	—	1,268（3か月）	7,311
活動実績 （アウトプット） 実績/当初見込	指標	単位	H28	H29	H30
	メディア記事掲載件数	回	—	107/100	207/150
担当課による評価	B（相当程度効果があった）				
評価をつけた理由	記事数や福知山城入館者数が増加しており、相当程度効果があったと評価する。				

NO.24

H30推進交付金「今だけ、ここだけ、貴方だけ観光推進事業」					
事業名	「森の京都」DMO事業				
担当課	産業政策部 産業観光課				
予算額	9,552千円				
<p>1 事業の背景・目的 大江山や芦生の森、美山かやぶきの里を有する京都府中部地域（亀岡市、南丹市、京丹波町、福知山市、綾部市、京都市右京区京北）において、生命と文化を育んできた「森」を多面的な角度からとらえ、豊かな自然と文化に触れ、活かし、未来に受け継げるよう林業の活性化や森の文化の発信などをおして観光地域づくりを推進し地域活性化を図るため、一般社団法人森の京都地域振興社（森の京都DMO）を組織・運営。</p> <p>2 事業の内容 一般社団法人森の京都地域振興社（森の京都DMO）に対する自治体負担金</p>					
決算額	負担金 9,552,000円 [一般社団法人森の京都地域振興社（森の京都DMO）への負担金] 計9,552,000円				
KPI	（目標）観光消費額 2,038,500千円 ⇒（結果）1,936,377千円				
事業の成果	エリア全体で観光による集客力を底上げするための施策を展開 [H30主要事業] ・マーケティング調査（WEB調査・動向調査） ・旅行商品開発・販売 ・特産品開発・ブランド化・販売促進・人材育成 等				
課題	福知山市としての事業に対する費用対効果も明確化。				
R1年度以降の予定	引き続き、一般社団法人森の京都地域振興社（森の京都DMO）と連携し、観光誘客を図る。				
成果実績 （アウトカム） 実績/当初目標	指標	単位	H28	H29	H30
	観光入込客数	人	922,951/940,000	946,618/960,000	927,086/980,000
活動実績 （アウトプット） 実績/当初見込	指標	単位	H28	H29	H30
	地域人材育成研修回数	回	—	5/8	3/8
担当課による評価	B（相当程度効果があった）				
評価をつけた理由	森の京都DMOを中心とした広域誘客を図った。				

NO.25

拠点整備交付金「北近畿『知』の拠点プラットフォーム事業、まちかどキャンパス事業」					
事業名	福知山公立大学「知の拠点」推進事業（北近畿『知』の拠点プラットフォーム事業、まちかどキャンパス事業）				
担当課	市長公室 大学政策課				
予算額	84,500千円				
<p>1 事業の背景・目的 福知山公立大学が学生、住民、企業等の多くの方に利用いただける魅力ある大学となるとともに、北近畿地域の産学官連携ネットワークを構築し、協働連携事業等を推進するためのプラットフォームを整備する。 また、「地域に根ざし、地域住民に見える大学づくり」を推進する一環として、旧市街地の空き店舗を改修して、市民聴講を含む大学講義や市民講座等を実施するための地域連携拠点並びに京都工芸繊維大学との文理連携拠点の役割を担う「まちかどキャンパス」を設置する。</p> <p>2 事業の内容 福知山公立大学が北近畿地域の住民、企業、各種団体等との連携・協働の活動拠点として様々な機能を発揮するよう、メディアセンター等の施設改修及びICT環境を整備。 旧市街地の空き店舗を改修して、市民聴講を含む大学講義や市民講座等を実施するための「まちかどキャンパス」を整備する。</p>					
決算額	委託料	5,700,000円			
	工事請負費	64,300,400円			
	備品購入費	14,499,600円			
			計84,500,000円		
KPI	(目標) プラットフォーム施設利用者数 30人 ⇒ (結果) 1,565人 (目標) プロジェクトの新商品等の開発件数 1件 ⇒ (結果) 5件 (目標) 府県を越えた自治体連携事業数 1件 ⇒ (結果) 2件 (目標) まちかどキャンパス利用者数 30人 ⇒ (結果) 2,935人 (目標) 住民連携取組事例数 1件 ⇒ (結果) 85件 (目標) まちかどキャンパス事業を利用した新たな起業者数 1人 ⇒ (結果) 1人				
事業の成果	メディアセンター、まちかどキャンパスともに目標としている利用件(者)数を上回る実績が出ている。両施設とも、学生のみならず、一般の利用者も増えてきており、「地域に根ざし、地域住民に見える大学」としての役割を担っている。				
課題	大学開学から日が浅く、施設整備に関する専門知識を有した人材が不足している。				
R1年度以降の予定	施設利用の促進のための広報強化や公立図書館との連携、自主企画等を検討していく。				
成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	H28	H29	H30
	—	—	—	—	—
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	H28	H29	H30
	—	—	—	—	—
担当課による評価	A (非常に効果があった)				
評価をつけた理由	メディアセンターの施設改修を行ったことで、福知山公立大学が北近畿地域における様々な課題解決に向けたシンクタンク機能を発揮し、地域住民や企業等の「知の拠点」としての役割を果たす施設となった。 また、まちかどキャンパスを整備したことで、「地域に根ざし、地域住民に見える大学」としての役割を果たしていることから非常に効果があったと評価する。				

NO.26

H30道整備交付金「北近畿の拠点“福知山”ネットワークを強化する道作り計画」					
事業名	地域間交流促進ネットワーク事業（市道）				
担当課	建設交通部 道路河川課				
予算額	135,347千円				
<p>1 事業の背景・目的 市道、林道の一体的な整備により、市内の道路網の整備をし、交通の利便性、地域間交流の促進、交流ネットワークの強化を通じて、災害時における避難経路の確保をし、安全・安心な道路環境、観光入込客数の増加を図る。</p> <p>2 事業の内容 広域的な道路網の整備とこれに接続する幹線道路の改良を行い危機対応の強化を図る。 ・市道 10路線、9,755m</p>					
決算額	委託料 8,348,400円（市道笹場小野線測量業務） 工事請負費 12,300,000円（市道上荒河観音寺線道路舗装改良工事 前払金） 計20,648,400円				
KPI	（目標）観光入込客数 869,017人 ⇒（結果）927,086人				
事業の成果	優先度の高い路線整備を進めることで、自動車や観光バス等の通過の円滑化を図ることができ、観光入込客数が増加し、年度計画の達成に資することができた。				
課題	用地買収が伴う事業や他事業との連携を図り進める事業において相手方との交渉や調整に困難を伴い工程に遅れが生じている。				
R1年度以降の予定	引き続き、他路線の整備を計画に従って進めることで、一層の誘客効果を図る。				
成果実績 （アウトカム） 実績/当初目標	指標	単位	H28	H29	H30
	工事完成路線	路線	0/8	0/8	0/8
活動実績 （アウトプット） 実績/当初見込	指標	単位	H28	H29	H30
	事業実施路線	路線	2/2	1/1	2/2
担当課による評価	C（効果があった）				
評価をつけた理由	KPIを大幅に達成できた。 2020年の大河ドラマ効果により更に観光入込客数は伸びると予想されるため、目標を達成する見込みである。				

NO.27

H30道整備交付金「北近畿の拠点“福知山”ネットワークを強化する道作り計画」					
事業名	地域間交流促進ネットワーク事業（林道整備）				
担当課	産業政策部 農林業振興課				
予算額	25,280千円				
<p>1 事業の背景・目的 市道、林道の一体的な整備により、市内の道路網の整備をし、交通の利便性、地域間交流の促進、交流ネットワークの強化を通じて、災害時における避難経路の確保をし、安全・安心な道路環境、観光入込客数の増加を図る。</p> <p>2 事業の内容 地域再生計画に基づき通常の林道機能に加え、大江山線を観光道路として、額田大油子線を国道9号線の迂回路として整備する。 ・林道 2路線、920m</p>					
決算額	委託料 2,755,600円 （林道額田大油子線測量設計業務、林道大江山線測量設計業務） 計2,755,600円				
KPI	（目標）森林整備施業面積 405.1ha ⇒（結果）267.6ha				
事業の成果	7月豪雨災害、台風24号災害により、施業予定箇所への林道が被災し施業できない箇所が多く目標達成に至っていない。早期に災害復旧を行い改善を図る。				
課題	早期に災害復旧を行うとともに、計画に従って整備を進めることにより、森林施業環境を整え丹州材の出荷量の増加を図る。				
R1年度以降の予定	当初計画に対し工事進捗が遅延している林道大江山線の林道法面保全実施に伴う総事業費の増額、林道額田大油子線の整備事業量縮小に伴う整備事業の見直し等関係機関との協議を進める。				
成果実績 （アウトカム） 実績/当初目標	指標	単位	H28	H29	H30
	木材搬出量	m ³	—	7,500/7,700	3,300/8,500
活動実績 （アウトプット） 実績/当初見込	指標	単位	H28	H29	H30
	事業実施延長 （大江山線）	m	—	0/150	0/33
	事業実施延長 （額田大油子線）	m	—	80/90	0/59
担当課による評価	C（効果があった）				
評価をつけた理由	全体の森林整備施業面積については目標達成に至っていないが、計画路線付近において事業体による森林整備が行われている。また、市道整備との全体計画においては、入込客数の増加等目標達成に至っている。				